平成26年度 秋田県関係機関の紹介

秋田県は4月1日付けで、平成26年度定期人事異動を発表しました。農林水産部及び各地域振興局の関係機関の主な担当者は次のとおりになりましたのでお知らせします。

【秋田県農林水産部】

部長・次長・参事・課長等の紹介（H26.4.1現在）

部　　長	**奈良　　博**
森林技監	橘　　政行
次　　長	佐藤　　博
次　　長	出雲　隆志
次　　長	小川　　正
次　　長	**藤原　元吉**
参　　事（県林業公社派遣）	沼田　行英
参　　事（兼畜産振興課長）	土田　正広
農業試験場長	渡辺　兵衛
果樹試験場長	藤井　芳一
畜産試験場長	伊藤　盛徳
農業研修センター所長	石田久美子
林業研究研修センター所長	福井　敬二
農林政策課長	難波　良多
農林政策課政策監	吉尾　聖子
農業経済課長	菊地　正隆
農山村振興課長	**佐藤　暢芳**
農山村振興課政策監	**髙野　尚紀**
水田総合利用課長	菊子　正稔
水田総合利用課政策監	加賀　　功
園芸振興課長	齋藤　　了
農地整備課長	**倉部　明彦**
農地整備課政策監	**瀧川　拓哉**
水産漁港課長	大竹　　敦
林業木材産業課長	橋場　忠則
林業木材産業課政策監	高松　武彦
森林整備課長	佐藤　龍司

【県地域振興局】

各地域振興局長及び農林部長名等は次のとおり。

［鹿角地域振興局］

◇局長：齊藤　譲　　◇農林部長：七尾清己

［北秋田地域振興局］

◇局長：熊谷　淳　　◇農林部長：高橋　徹

［山本地域振興局］

◇局長：下山　昇　　◇農林部長：髙田清晃

［秋田地域振興局］

◇局長：伊藤邦夫　　◇農林部長：目黒久彦

［由利地域振興局］

◇局長：熊谷　譲　　◇農林部長：赤川淳美

［仙北地域振興局］

◇局長：高橋訓之　　◇農林部長：足達信廣

［平鹿地域振興局］

◇局長：佐藤　功　　◇農林部長：長沢淳良

［雄勝地域振興局］

◇局長：奥山　稔　　◇農林部長：中村　章

【その他関係部署】

観光文化スポーツ部
　次　長　　保坂　龍弥
生活環境部
　八郎湖環境対策室長　　千葉　俊成
建設部
　技術管理課技術管理監　　高畑　新一
出納局
　検査課技術管理監　　佐藤　弘巳

［各地域振興局農林部農村整備課長・所長及び班構成］

◇鹿　角：齋藤憲一
　（ふる里づくり班・生産基盤班）
◇北秋田：石井公人
　（管理班・ふる里づくり班・生産基盤班）
◇山　本：石川　厚
　（ふる里づくり班・生産基盤班）
◇秋　田：舛谷雅広
　（管理班・ふる里づくり班・生産基盤第一班・生産基盤第二班・生産基盤第三班）
◇八郎潟基幹施設管理事務所：石川一彦
◇由　利：菅原正喜
　（ふる里づくり班・生産基盤班）
◇仙　北　農村整備第一課：長嶋　満
　（管理班・ふる里づくり班・生産基盤第一班・生産基盤第二班・生産基盤第三班）
◇仙　北　農村整備第二課：畠山敏博
　（生産基盤第一班・生産基盤第二班・生産基盤第三班）
◇平　鹿：阿部浩樹
　（ふる里づくり班・生産基盤第一班・生産基盤第二班）
◇雄　勝：佐藤　猛
　（ふる里づくり班・生産基盤班）

新任のごあいさつ

秋田県農林水産部長

奈　良　　博

水土里ネット会員の皆様におかれましては、日ごろから本県の農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進につきまして、格段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年12月、国では今後の農政のグランドデザインとなる「農林水産業・地域の活力創造プラン」を発表しました。その内容は、担い手への農地集積や6次産業化の推進等の産業政策と、日本型直接支払制度等の地域政策を、車の両輪として進めるというものであります。

このプランは、農業を基幹産業とする本県に大きな影響を及ぼすものでありますが、このことを悲観的にではなく、むしろ反転攻勢の足掛かりとして捉え、長年の課題を克服し、力強い秋田県農業を創り上げていく必要があると考えております。

このことから、今年度からスタートする「第2期ふるさと秋田元気創造プラン」に掲げた「国内外に打って出る攻めの農林水産戦略」に基づき、「農林漁業振興臨時対策基金」を有効活用しながら、今後の施策を展開してまいります。

土地改良関係の施策としては、水田フル活用の基盤となるほ場整備を進めるとともに、高品質・高収量を実現する地下かんがいシステムの整備や、農山村地域の持つ多面的機能を持続的に発揮するため、新たな日本型直接支払制度を活用し、農業生産活動の継続や農地・農業用施設の維持・保全活動等を促進することとしており、引き続き、関係機関、団体等との連携を図りながら、着実に推進してまいりたいと考えております。

国の土地改良関係予算は、近年厳しい状況が続いておりますが、力強い秋田県農業を造り上げていくためには、農業農村整備事業の果たす役割は非常に重要なものであります。県といたしましては、引き続き予算確保に努めてまいりますので、これまで以上のご理解とご協力をお願いいたします。

終わりになりますが、水土里ネット会員の皆様の益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新任のごあいさつとさせていただきます。

秋田県農林水産部次長

藤　原　元　吉

昨年度は農山村振興課長として、水土里ネット会員の皆様には大変お世話になりました。

昨年度は、県北部の豪雨、県南部の大雪により災害が多発した年でありました。被害にあわれた皆様には心よりお見舞いを申し上げますとともに、今後の営農に支障がないよう、被災された農業施設等の復旧・再建を引き続きしっかり支援してまいります。

さて、昨年、国が発表した農政改革において、土地改良が主に関係する項目が2つありました。1つ目が農地中間管理機構の創設です。これは、担い手に農地を集積する新たな仕組みで、今後、基盤整備と併せて実施することで、より一層の事業効果が期待できるものです。2つ目が日本型直接支払制度の創設です。農業農村の多面的機能の維持向上を図るため、地域の共同活動や環境保全のための営農活動を支援するもので、従来の中山間地域等の直接支払と併せて、農地水保全管理支払が拡充し実施されるものです。

いずれの制度におきましても、水土里ネット会員の皆様が効果的に活用できるよう、関係機関と調整を図り、積極的に情報提供してまいりたいと考えております。

今年度も引き続きよろしくお願いいたします。

秋田県農林水産部農山村振興課長

佐　藤　暢　芳

水土里ネット会員の皆様には、日ごろから農業農村整備事業の推進にご理解とご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。着任に当たり、農山村振興課において、今年度特に重点的に取り組む二点についてお話させていただきます。

まず、一点目は、中山間地域等における活性化についてです。昨年末、国が公表した農政改革の一つである「日本型直接支払制度」が今年度からスタートします。この制度は、農山村地域の持つ多面的機能を発揮するため、地域住民の共同活動を支援するもので、当課では、県の耕地面積全てをカバーする意気込みを持ち、市町村や土地改良区と連携を図り、事業内容の十分な周知と掘り起こしを行ってまいります。

また、今般の農政改革により、狭あいな立地条件下で、高齢化等の進展が著しく大きな影響が懸念される中山間地域のポテンシャルが最大限に発揮されるよう、生産基盤の整備はもとより、生産から加工・販売、さらには担い手の育成等に至る一連のサポートを集中的に総合支援してまいります。

二点目は、ほ場整備事業をはじめとする農業農村整備事業新規地区の積極的な採択です。新たな農政の動きに対応するためには、農業生産の基礎となる農業用水やほ場等の生産基盤の整備が不可欠であり、こうした中、各地域で事業化の気運が急速に高まってきております。生産調整の廃止が見込まれるまでの数年間がまさに正念場であり、県では、こうした気運に応えるべく地元農家等の声に耳を傾け、熟度の高い地区の新規採択を図り、地域要望に対応した整備を加速的に進めてまいります。

終わりに、今後も会員の皆様と十分な連携を図りながら、事業の推進に努めてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願いします。

平成26年度　土地改良関係課事務分掌（秋田県）

（平成26年4月1日現在）

農地整備課

課　長
倉　部　明　彦

政策監
瀧　川　拓　哉

（調整・企画班）

主幹（兼）班長
工　藤　輝　喜

副主幹
石　井　幸　樹

主　任
佐　藤　恵　一

技　師
五十嵐　佳　苗

（土地改良指導班）

主幹（兼）班長
鈴　木　宏　保

副主幹
小　関　裕　紀

専門員
藤　原　隆　則

主　査
山　田　敦　史

主　事
小　野　雄　策

（水利整備・防災班）

主幹（兼）班長
高　橋　信　明

副主幹
須　藤　邦　彦
児　玉　将　一

主　査
石　井　　崇
鈴　木　　努

（農地整備班）

主幹（兼）班長
阿　部　喜　孝

副主幹
小　嶋　幸　喜

主　査
高　橋　　忍

主　任
佐　藤　則　志
渡　部　紘　宣

（技術管理班）

主幹（兼）班長
佐　藤　重　孝

副主幹
後　藤　哲　也

主　査
成　田　光　明
保　坂　　学
畠　山　　真

技　師
袴　田　直　幹

農山村振興課

課　長
佐　藤　暢　芳

政策監
髙　野　尚　紀

（調整・地域活性化班）

主幹（兼）班長
村　上　　旬

副主幹
鈴　木　慎　一
大　友　秀　樹

技　師
高　橋　　愛

（地域環境保全班）

主幹（兼）班長
茂　木　　満

副主幹
宮　城　良　春

主　任
青　木　隆　行

技　師
高　橋　真太郎

（農村整備計画班）

主幹（兼）班長
齊　藤　秀　悦

主　査
安　部　研一郎
大　山　結　輝

主　任
橋　本　　崇
田　中　佳　輝

（国土調査班）

主幹（兼）班長
相　場　博　隆

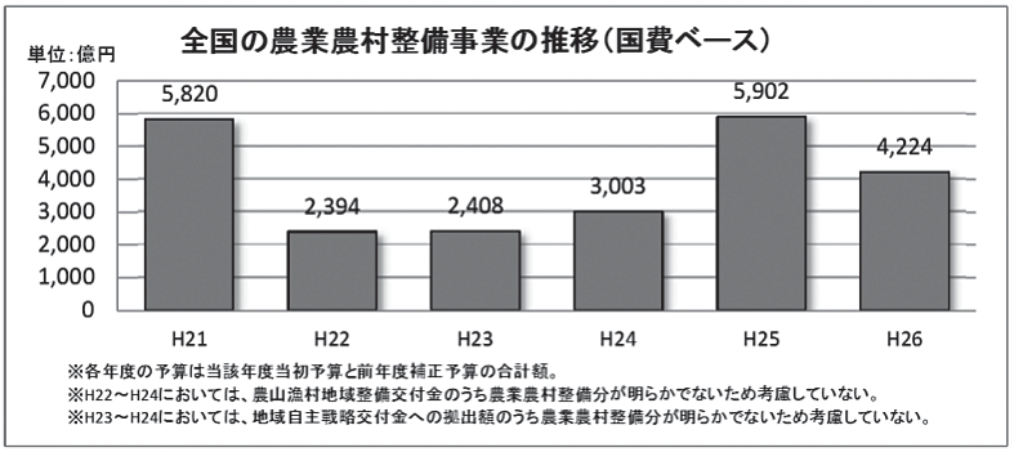
主　幹
佐　藤　栄美男

副主幹
釜　台　和　則

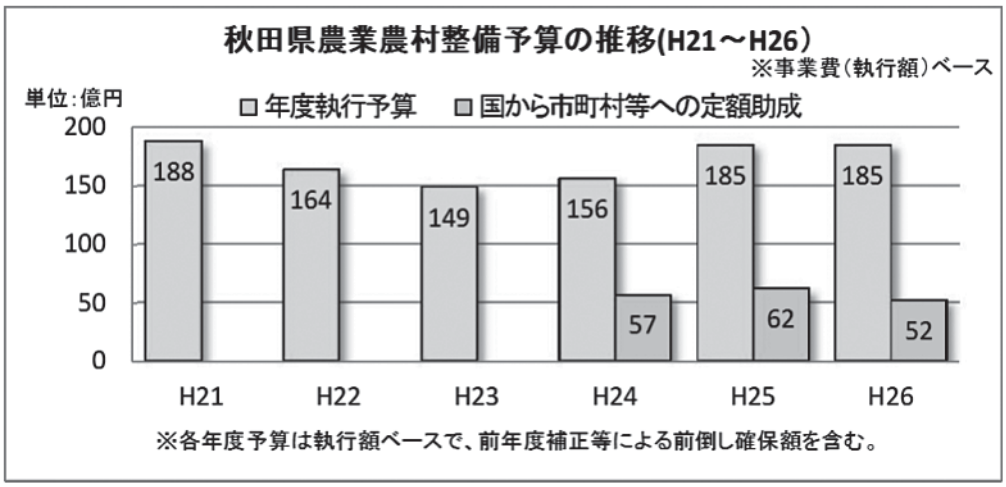
主　任
谷　口　　仁

平成26年度農業農村整備事業等予算の概要について

○国のH26執行予算(H25補正含む)は、補助金と交付金を合わせると4,224億円（国費ベース）となり、前年比72%で大幅に下回る。



○県のH26執行額は、H25補正とH26当初を合わせ185億円を確保（対前年比100%）。



平成26年度からの新規事業について（秋田県）

①地下かんがいシステム導入支援事業（県営）

大区画ほ場整備が完了し、農業法人などの担い手に集積された団地を対象に、地下かんがいシステムの導入を支援するほか、戦略作物の育成調査及び各種試験に基づき、地下かんがい利用栽培マニュアルを作成し、県内への普及定着を図る。

（1）地下かんがいシステム整備事業

補 助 率：国：50～55%、県：27.5%、市町村・農家：22.5%～17.5%

事業内容：地下かんがいシステム（地下水位制御装置、補助暗渠）などの整備

（2）地下かんがいシステム普及推進事業

事業内容 ： 現地ほ場における生育状況（収量・品質）、営農労力などの調査

試験ほ場（農業試験場内）の整備

試験ほ場における調査・試験と作目別地下かんがい利用栽培マニュアルの作成